

講義名	19-日本語B(聞く)/15-日本語B【留学生科目】			
担当教員	福岡 寿美子			
開講期・曜日・時限	後期 水曜日 2時限	授業形態	演習	
履修開始年次	1年生	単位数	2	備考

主題と概要 留学生が、外国語としての日本語の聴解と発音について学ぶ。 日本語の聴解では、聞き取りの際の間違いやすい発音や文法等の基本的な練習を行う。 日本語の発音では、表現したい内容を聞きやすく分かりやすい発音で話せるようになるための練習を行う。 特に話しことばの発音およびオノマトベについて学ぶ。
--

到達目標 発音に関する聞き取りでは、留学生が発音と表記に留意し、總論形などの話しことばが聞き取れるようになることを到達目標とする。 文法に関する聞き取りでは、留学生が受身、使役、敬語等が理解できるようになることを到達目標とする。 会話表現では、留学生が会話らしい表現ややり取りに慣れることを到達目標とする。 留学生がオノマトベについて理解し、日本語の表現が豊かになることを到達目標とする。 留学生が正確で自然な発音で話せるようになることを到達目標とする。 留学生がなめらかな発音でコミュニケーションをスムーズに行えるようになることを到達目標とする。 各到達目標については、小テスト、中間試験、期末試験等において、その到達度を測る。 留学生が考える学習を行うようになることを到達目標とする。
提出課題 予習、復習、ワークシート等、授業中にその都度指示する。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック 各学生が提出した課題について、一人一人にチェックおよびコメントを行い、次の授業において、各々に返却をし、全体としての講評・解説等も行い、フィードバックをする。

評価の基準 期末試験(30%)、中間試験(10%)、小テスト(10%)、課題の提出(20%)、授業参加度(30%)等による総合評価を行う。

履修にあたっての注意・助言他 出席は毎回とする。 全授業回数の1/3以上欠席した場合は、試験を受けることができない。 連続3回で1回欠席とする。 1.5分以上の遅刻は欠席となる。 真面目かつ積極的な授業参加を望む。

教科書 ・使用しない。					
-----------------------	--	--	--	--	--

プリント資料及び参考文献 必要に応じてプリント資料を配布する。 ＊コミュニケーションのための日本語発音レッスン 戸田貴子著 スリーエーネットワーク ＊日本語総まとめN2聴解 佐々木仁子・松本紀子著 アスク出版 ＊日本語総まとめN1聴解 佐々木仁子・松本紀子著 アスク出版 ＊教助用日本語教育ハンドブック 発音 今田滋子著 国際交流基金日本語国際センター 凡人社 ＊上級の手をつける聴解ストラテジー/T.T. 川口まゆみ・朝生新子・杉村聡枝・根本牧・原田明子著 凡人社 ＊シャドーイングで日本語発音レッスン 戸田貴子編著 スリーエーネットワーク

授業計画 第1回：イントロダクション 授業の進め方および注意事項、スケジュール、教材、評価方法等 聴解カプレテスト 第2回：発音に関する聞き取り、ディクテーション 第3回：文法に関する聞き取り、他 第4回：文法に関する聞き取り、他 第5回：会話表現、DVD 第6回：聴解、他 第7回：聴解、他 第8回：中間期理解度試験の実施およびその解説 第9回：話しことばの発音 第10回：話しことばの発音 第11回：日本語発音レッスン、他 第12回：オノマトベ、他 第13回：オノマトベ、他 第14回：日本語発音レッスン、他 第15回：総復習および期末定期試験の傾向と対策について

授業形態(アクティブ・ラーニング) ア：PBL(課題解決型学習) ウ：ディスカッション、ディベート オ：プレゼンテーション キ：その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) エ：グループワーク カ：実習、フィールドワーク
---	--

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間 各プリントに関して、語句の読みや意味調べ、内容理解等の予習を、毎回2時間行ってください。 発音・聴解の復習および課題を、毎回2時間行ってください。
--

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 日本語聴解能力を身につけ、活用することができる。 聴解能力をつけることにより、人と円滑なコミュニケーションをとることができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考
